

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	平成20年度に「地域密着型サービス」として、理念の見直しを行った。地域の方々の交流を持ち、気軽に何でも相談できる体制を掲示している。運営理念が掲示され独自の理念を作りあげている。	○	今後も近隣などにお声をかけ 交流を深めていきたい。
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフは常に理念を頭に入れ、またそれを書いたものを持参している。	○	常に情報を共有し、毎日の申し送り又、ミーティングを行い、個人に合ったケア内容を話しあっている。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	入居される際には説明の上、ご理解を頂いている。又ボランティア近隣の方にはホーム便りなどを活用してご理解いただけるよう取り組んでいる。ご家族さまには面会の時に説明したり言葉に含めるようにしている。地域の方々に対しては来訪時や行事の見学や参加などを呼びかけ理解を得よう努めている。	○	避難訓練やホームでのレクリエーションを活用し、近隣の方々との交流をより一層深めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ホームで開催する七夕祭りには近隣の方々にお声をかけ、一緒に楽しんでいただいている。近隣の方々とは大分顔見知りになり挨拶や声かけなどを積極的にしている。行事の際は近隣の老人の方やご家族民生委員の方・また隣の老人ホームの方にも声をかけ参加していただいている。	○	今まで以上にお声をかけ気軽に立ち寄っていただけるよう行事ごとにお知らせしていきたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に入会し定期的に地域の方々と話しあったりホーム運営の状態を見学していただくことにより一層地域との交流・ふれあいの機会を持てるようにする。	○	地域住民との交流に取り組んでいきたい。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ご家族の了解の元、近所にふれあい便りを配布。	○	色々な行事なども、取り入れていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員は自己評価の意義や目的を理解し、全員が取り組んでいる。会議や文章にてスタッフ全員が把握しサービス改善に努めている。	○	外部評価の結果はミーティングなどで話し合い、改善に向けてのフォローアップに取り組んでいる。
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では問題や課題、取り組みなどを話し合っている。	○	運営推進会議で話あった内容は、その後各フロアミーティングにおいても話し合い、意見交換しサービスの向上に生かしていきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	小樽グループホーム協議会に加盟している。また、包括支援センター、市の担当者ともいろいろな面で行き来をしている。	○	今後も連携し、勉強していきたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	当ホームの管理者は、小樽市医師会主催の成年後見人制度の公演に参加すると、詳しく学んでいるので必要な方には、関係者と話し合いができる。	○	現在青年後見人制度を利用している方2名。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	日々、身体拘束や防止についての話し合いを持ち、ミーティングにおいては確認を取っている。	○	常に身体に異常がないかを確認している。「あざ」などを確認した場合はスタッフ全員に確認をとり原因を確かめている。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には重要事項に基づき説明を行い、退去される際また利用者の状態変化において長期入院となる場合には、今後の対応などについてもご家族とご相談の機会を持つ。	○	退去されてもできる範囲内においてお話をきく機会を持ちたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様からの声(苦情、不満、希望等)に素早く対応し、それについて話し合い改善できるよう解決策を見出す。	○	利用者の声に対しては個別面談を行い、早急に対処していきたい。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月担当職員から手紙で健康状態・生活面についてお知らせし、又ホーム便りにてホーム全体の現状を知って頂けるようにしている。	○	ご家族が来訪された際には、日常においての生活などをお話し、状態をお知らせする。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会又はご家族の来訪時に、要望や意見をお聞きし、ミーティングや責任者会議で話し合い、改善している。	○	ご家族来訪時には積極的にお話し、ご意見などを聞きだしたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃からフロアミーティングや個人面談を行い、意見交換をしている。	○	今後も意見交換を行い、要望等を聴取していきたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	スタッフに欠員が出来たときは、他フロアから応援を頼み、日中3人体制は維持できている。	○	緊急時には即対応できるよう、職員と連携をしていきたい。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	4月に大幅な人事異動が行われたが、勤続年数も長く利用者へのダメージを最小限にとどめている。	○	状況観察やお声がけなど、ここに努力し利用者との交流に勤めて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所外の研修にはパート職員も参加し、スキルアップや資格取得には常に情報を得て促している。	○	出来るだけ多くの参加を呼びかけている。介護福祉士の育成に力を入れている。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	2級ヘルパー研修での研修生の受け入れなども行っている。七夕祭りや非難訓練等、隣近所のラ・ナンカさんと交流できるよう働きかけている。	○	今後も交流を持ち、情報交換をしていけるよう、取組んでいきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	休憩時間などはリラックスできるように、新たに休憩室を整備した。	○	職員の親睦を深めるために、1泊旅行などを実施したい。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	すでに資格取得年数に達している職員には、試験の時期などをしらせアドバイスをしている。	○	資格取得に向けて、適切なアドバイスをしていきたい。また、一緒に勉強できる機会を持ちたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前にご家族様からよく話を聴き、生活状況、習慣、性格等を持つてる情報以上のものを引き出せる様、努力する。	○	本人の不安要素を聞き出し、安心して暮らしやすい日常生活を過ごしていただけるよう努める。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	御家族の苦労などを聞き、安心して入居していただけるよう、十分話合うよう努めている。	○	ホーム来訪時、電話、お手紙などで連絡を取り信頼関係を築く努力をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた際には柔軟な対応を行なう。市の福祉課にも相談している。	○	相談者の心の内をしっかりと把握するため、相手の立場になって共に考えるよう努力する。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に何度でも訪問して頂き納得の上入居していただくよう声掛けしている。	○	本人のペースを見極め、ご家族と相談し支援している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者が興味のあることを見つけ出し、日常生活の中で職員と共に作業をさせていただいている。(お茶碗拭き・掃除等) 職員のペースで一日の流れを決めるのではなく、利用者様と一緒に考えたり、行ったりすることにより家族の様に支えあう関係を築いている。	○	共同生活の中で、一緒に楽しみながら生活できるように支援したい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者個人の生活状況を把握し、本人にとって何が良いかを話し合っている。	○	ご家族と共に話し合い、支援していきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	行事などご家族の参加を募ったり、誕生日や来訪時、食事を一緒にして頂いている。	○	職員のほうから積極的に話しかけ、普段から親しい関係を築くようにしている。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	関係が途切れないよう支援する。本人の馴染みのかたの来訪がある。	○	本人が希望することがあれば支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ひとり一人個性が強く、考え方感じ方も違うため、スタッフが中に入り問題を収めたり話を聴いたりと雰囲気壊さない様に自然に関わっている。	○	日々の関わりの中で、言葉や表情から思いや意向の把握に努めていく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去されたご家族とも、電話などで状況などをお聞きし、ご相談にのっている。	○	転院などでご家族からご相談があった場合は、面談に同行するなどの対応をしている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の生活状況を観察し、言葉や表情などから汲み取り把握している。すでに把握している情報だけでなく、今現在、どのように暮らしたいのかを利用者様の言葉や行動からも把握するよう努力する。	○	職員全員が一人ひとりの思いや意向を汲み取り、その人らしい生活を提供出来るよう努めたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者の基本情報を良く知り、会話の中で本人の思いを引き出す努力をしている。	○	その人らしい生活を送れるよう援助していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者個人の生活状況を把握し、申し送り時・ミーティングにおいて、変化がある場合には話し合いをしている。	○	本人の持っている力を把握し、より良い生活を支援していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	担当の職員がアセスメントをし、ケアマネと相談しながらプランを作成し、フロアー会議にて職員全員に提示し意見交換やモニタリング、カンファレンスをおこなっている。	○	日々、利用者の変化に伴い、話し合う機会を持って行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	フロアー会議において、問題点の抽出とサービスについて話し合い、状態が変化した場合は担当職員とケアマネの判断により計画の見直しをする。	○	職員からの情報や意見を取り入れ、迅速に対応し計画の見直しを行う。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別日報には、利用者の行動・言動などを記録し、細かい時間帯で記録している。また、身体状態なども記録している。	○	個別日報・日誌を充実し、情報の共有化を図りたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療連帯体制を活かしその利用者にとって負担となる受診や入院回避、早期退院の支援などを支援している。	○	今後も支援していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防署には消防訓練の依頼、警察には家族の了承にて徘徊の危険性の高い入居者様の情報を提供し即座に対応して頂けるようにしている。	○	今後も連携を取って行きたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	月1回、ホーム全体で「歌声ひろば」を開催している。また、訪問理容サービス・マッサージなどを利用している。	○	希望者があれば、今後も介護保険以外のサービスを利用していきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	困難な事例が発生した場合には、地域包括支援センターに相談し解決をしている。	○	解決困難な場合は速やかに相談して連携を取って行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>事業所の協力病院他、利用者が利用している病院と連絡を密に行い、状態変化においては早急な対応をしている。</p>	○	<p>利用者の状態の変化にすばやく対応し、病院との連携を取って行きたい。</p>
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>利用者の状況を受診の際に説明し、ドクターからの指示を頂いている。</p>	○	<p>利用者の状態の変化にすばやく対応し、病院との連携を取って行きたい。</p>
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>かかりつけ医の看護師とは気軽に相談アドバイスをいただける関係は築けている。</p>	○	<p>利用者の状態の変化にすばやく対応し、病院との連携を取って行きたい。</p>
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>利用者が入院した時は頻回に見舞い、病状の経過や回復状況などを病院側と面談し、退院時期など情報を交換している。</p>	○	<p>入院による孤独がないよう、ケアしていきたい。</p>
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>身体的低下が著しい入居者には、家族と頻回に連絡をとり、状況を説明し話しあっている。また、終末期ホームで迎える利用者については、家族の意向などを良く聞き関係機関に相談をしている。</p>	○	<p>利用者の状況は常にお話する機会を持ち、また月1回のお手紙にて、お知らせしている。</p>
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>利用者の状態に変化があった場合など、すぐに対応して頂けるよう医療機関とも密に連携を図っていく。</p>	○	<p>支援困難な状態になった場合は、ご家族と良くお話をし、今後については支援をしていきたい。(転院・面談等)</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>移行先の相談員を密に連絡を取るなど、今までの生活状況を伝え移転後の不安軽減に努める。</p>	○	<p>状況に応じて、移転先の相談員と連携を取りたい。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>職員は常に利用者のプライバシーに配慮を忘れない。個人情報はしっかり保管している。</p>	○	<p>個人情報については他の利用者様に知られないよう十分に配慮している。</p>
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者の生活行動を見極め、表情などを読み取り、希望を聞き取っている。また自分で出来ることはできる範囲でやっていただくよう促している。</p>	○	<p>押しつけではなく、本人の意志に添うように努めてる。</p>
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりの体調に配慮し又その時の本人の気持ちを尊重している。</p>	○	<p>個別に対応し安心して頂いている。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>月に一度出張理美容を利用している、又、ご希望があれば馴染みの美容室を利用している。</p>	○	<p>プライドを大切に、強引なアドバイスはしない。本人の好みを大事にしていく。</p>
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>本人の好みを把握し、できる限り提供する努力をしている。配膳、食器拭きなど職員と一緒にしている。</p>	○	<p>食事の味付けなどのアドバイスを頂いたり、職員と協力してお手伝いなどをしていただいている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	喫煙者には本数のチェック、場所を決めスタッフ見守りにて喫煙する。おやつのお好みも好き嫌いをうかがいなるべく希望に沿うよう努力している。	○	入居前に飲酒をしていた利用者がおられ、全体で行ったお花見の席では、久しぶりに飲酒され大変喜ばれていた。それによってコミュニケーションも密になれた。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを排泄表により察知し、こまめにトイレの声かけを行っている。	○	排泄パターンを把握し、居室内の設置しているポータブルトイレは、使用頻度を少なくしていき、職員は上手に声をかけ、またリハビリパンツを使用している利用者には布のパンツを勧めるなど、トイレでの排泄を促している。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週2回の入浴実施。体調の変化に考慮し、入浴日・時間帯を考えている。	○	入浴介助者が男性の場合で、入浴を拒否される利用者には柔軟に対応している。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者の生活パターンを見極め、時に夜間眠れない場合は会話をもって対応している。	○	睡眠パターンを狂わせないよう生活リズムを保つことに心がけている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	月に1回の「うたごえ広場」を楽しみにされており、ホーム全体で取り組んでいる。また、散歩や買い物など外出可能な利用者には積極的に勧めている。	○	個々の得意分野を把握し、本人の楽しみごと、気晴らしになるよう支援していく。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	所持金は5千円までとし、希望があれば本人手持ちとしている。職員その手持ち金が何に使われているかを把握している。	○	ほとんどの方は職員任せになっているが、一緒に買い物へ出かける際には本人に支払ってもらうよう対応している。
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ドライブ、買い物、外食などフロア一全員での外出、又は希望者をつのり戸外に出かけるよう実施している。	○	体調や身体状況により外出を拒むかたが多くなったが、車の乗り降りを少なくドライブだけでも楽しんで頂けるように心がけている。渋々外出をしたが帰ってくると笑顔になっているのが職員の励みになっている。フロア一全員で去年は百合が原公園へ出かけた。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	2年に1回家族同伴にて温泉1泊旅行の実施。ほとんどの方が外出を望まれず、お誘いしても拒否される事が多いが、出来る限り外出の機会を持つよう心がけている。	○	個別に行って見たいという希望する入居者はいないが、もし希望する入居者がいたときは家族と相談し対応する。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人が希望したときはいつでも対応している。	○	母の日など、お花が届いてた際には、まずスタッフが電話をして、その後会話をさせていただくよう、配慮している。また、自分からかけたいと訴えられた場合には即、対応をしている。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪者にはお飲み物をお持ちし、また時には食事・おやつなどを一緒に摂っていたりしている。	○	食事を一緒に「おいしかったわ。家でも作ってみます」とのお声をいただくと、職員の励みにもなっている。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「どんなことがあっても身体拘束はしない」という職員の共有認識をはかっている。	○	常に日常的に話あっている。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	外出をしようと入り口までいかれる事があれば、さりげなく声をかけ、一緒について行くよう職員は把握している。玄関には日中施錠はされていない。	○	居室に鍵をかけていた方がいたが、安否確認が取れないため、本人と良く話し合い、今では鍵をかけていない。
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は常に利用者の所在を把握し、転倒のおそれのある利用者については、さりげなく同行している。夜間は頻繁に巡回し安全に配慮している。	○	居室で過ごされて居る時などは、プライバシーに配慮しながらお声をかけ、体調の確認をしている。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険なものを携帯している利用者はいない。職員が使うはさみなどについては常に管理をしている。	○	ワークデスクやキッチンなどにおいて、利用者のでの届くところに危険なものを置かないよう、スタッフ同士が声をかけ合っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日常のヒヤリハットを記録し、事故発生原因を見つけ出し防止に努める。事故発生時は速やかに事故報告書を作成し、今後の予防対策を検討する。	○	応急対応のマニュアルを作成している。朝の申し送りの際に、危険性の高い利用者の情報を交換する。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	利用者様の急変や事故発生に伴う初期対応については、スタッフ間にて日ごろから十分に利用者様の体調を管理し、対応できるようマニュアルを掲示している。	○	隣のラ・ナシカさんに避難する場合の訓練も想定する。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	近隣の施設に避難できるよう日頃から協力体制を確保している。また、避難についても協力をして頂けるよう働きかけている。	○	他のグループホームでの火災の事故があり、より密に緊急時の対応について職員とも話しあっている。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	月に1回、担当職員が御家族にお手紙を書き、状況をお知らせする。	○	抑圧感のない暮らしを提供するよう心がけ、状況に応じて対策も一緒に考える。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	利用者に生活状況を把握し、いつもと様子が違うと感じた時は、バイタルチェック・変化時の記録をつけ、かかりつけ医に相談・指示を頂く、状況に応じては医療受診につなげている。	○	普段の状況を把握し、体調の変化に敏感に対応し早期発見につなげるよう努める。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の処方せんをファイル保管し理解している。服薬時は本人手渡し、内服確認する。	○	薬の変更時・病院が変更になったときは、職員に伝わるように日誌に記載注意をよびかけている。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	利用者個々に排泄状況を把握するために、排便チェック表・水分チェック表を作成している。又繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ、リハビリ体操などに取り組んでいる。	○	若い時からの便秘症の入居者・又精神性の高い入居者(一日じっと過ごし職員の手助けが入れられず、ボディータッチを嫌う)にはやはり薬・座薬・洗腸を頼ざる得ない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	朝・夕の口腔ケアは定着し習慣づいている。入れ歯は毎晩入歯洗浄剤につけている。	○	朝の口腔ケアは習慣づいているが、毎食後・夜間となると本人の長年の習慣から理解を得られないことが多々ある。食後必ずお茶を飲んで頂く程度の方もいる。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事や水分をチェックし、職員は個々の状況を把握している。また、塩分のなるべく少ない物を提供する過程で、だしなどを上手に取り入れ、料理にも工夫をしている。	○	一人ひとりの好みや、食欲なども十分考慮し栄養が摂れるよう健康管理にとめている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出先から帰宅したときは、うがい・手洗いの徹底を行っている。感染症に対し予防と早期発見、早期対応に努めマニュアルを作成して。利用者・職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。	○	今年1月にノロウイルスが2階フロアーにおいて発生し、手洗い・うがいはもちろん、利用者の体調には十分注意し、下痢・嘔吐が合った場合など、すぐに受診をする態勢を整えている。また職員が体調が悪い場合は病院を受診し、検査等を行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板や布巾などは、毎晩漂白し清潔に心がけている。また、冷蔵庫内の食品の賞味期限を職員全員がこまめにチェックしている。	○	食器を拭いたタオルはそのつど漂白し、再利用をしていない。冷蔵庫の食品の管理は職員全員が行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関脇まわりにはプランターを置き、花を演出している。内玄関には鉢植の花などを置き、家庭的な雰囲気作りをしている。	○	狭い空間の為出来ることは限られているが季節感を表す物や心温まる雰囲気を出せるよう心がけている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食卓テーブルや窓際には花などを飾り、季節感を演出している。また、利用者が花に水をあげてくれ、それを楽しみにされている。	○	トイレ・風呂場のドアには場所の認識が出来るようドアに掲示し、使用中の札もある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホール内のソファにて、利用者同士の会話が見られる。	○	食卓テーブルにおいても、利用者同士の会話があり、職員も見守りながら会話を持っている。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各個室には仏壇や記念写真、使い慣れた家具など本人の好むものが配置されている。	○	入居時には、家族の方に本人が馴染んでいた品、大事に思っている物などをもって来ていただくようお願いしている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	ホーム内において頻繁に温度管理ができるよう、温度管理表を作成し職員がこまめに記入している。 また、清掃時・リネン交換の際には、換気を行い空気を入れ替えを行っている。	○	外気と温度差があるときは、温度差と利用者の様子を見ながら調整している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	室内はバリアフリーになっており、廊下・浴室・トイレには手すりがついている。	○	各居室の入り口に手すりがほしいが構造上問題あり設置不可能とのこと。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各居室の入り口には飾り棚があり、本人の好みのものが飾られている。	○	現在入居されている方々には建物の設備や物品に対し、不安や混乱、失敗等に陥る方いないが、状態が変わり、新たに混乱や失敗が生じた場合は、職員一同で話しあい状況に合わせ環境整備に努めたい。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	裏庭に畑を作り、収穫した野菜を利用者と一緒に収穫し食卓に上げている。 玄関廻りに、プランターに花を植え、ベンチを置き日向ぼっこが出来るようにしている。	○	ベランダにて家庭菜園や朝顔を植え、皆さんで楽しまれている。

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ②
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ①
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ②

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない ②
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ①
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない ①

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

職員ひとり一人が入居者様との信頼関係を深め、日常生活がより充実するよう支援する取り組みを行っていきたい。入居者様を巻き込んで自立支援を促している。スタッフ見守りの中で料理にも参加して頂いている。今後も笑顔がたくさん見られるような支援をしていきたい。